

【講演・発表・助言原稿】

【研究発表】

タイトル 「Next PTA ～我ら西湘応援団～」

講演者 神奈川県立西湘高等学校 PTA会長 菅原 秀武

学校名 神奈川県立西湘高等学校

1 はじめに

令和5年度第61回神奈川県高等学校PTA連合会県西地区大会研究協議『Next PTA～我ら西湘応援団～』を事例発表テーマとし、本校PTA会員を対象とした、PTA意識調査に関するアンケート調査を実施し、アンケート結果をもとに、これからのPTAについて考えることとしました。

2 本校の概要

本校は、昭和32年4月1日の開校以来、67年目を迎えた伝統のある学校です。卒業生も23000人を超え、神奈川県をはじめ、全国各地で各分野でのリーダーとして活躍しています。

平成29年度（2017年度）まで13年間、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）として文部科学省より理数教育研究推進校の指定を受けて培った成果を、平成28年度から令和3年度までの2期6年間に続き、令和4年度からあらたに3年間の指定を受けた「プログラミング教育研究推進校」第Ⅲ期の取り組みに生かし、「論理的思考力」や「協働して問題を解決する能力」のみならず「創造的思考力」を養うことで、予測不可能な社会を自立して生き、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する、持続可能な社会の形成者の育成に取り組んでいます。

学習面では、国公立大学や難関私立大学への進学者数が毎年増加しています。一方で、部活動では運動部・文化部、併せて24の部活動と4つの同好会が活発に活動し、輝かしい成果を収めています。部活動で頑張る生徒が学習面でも粘り強く学習に取り組み、自分の第一志望校に進学していきます。

この4月7日に、本校は第67回の入学式を行い315名の新入生を迎え、生徒数は977名と

なりました。

学業はもちろんのこと学校行事、部活動などを通じて、「リーダーとして国際社会に活躍できる人材」として成長し、生徒一人ひとりが、この西湘高校の場で輝ける存在となること、また本校がさらに成長・発展していくことを目指しています。



3 本校のPTA活動

(1) 本部

本校PTA本部役員は、会長1名、副会長3名、書記1名、会計1名で活動しており、PTA事業の企画や運営を担う、広報委員会、ふれあい委員会、厚生委員会、成人教育委員会、学年委員会の5つの委員会で構成されています。

本校PTAは、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校・保護者等との連携を今までよりも密にして、コロナ禍前のPTA活動へと少しずつ踏み出しおり、このコロナ禍で得た経験を活かし、変えることはべきものは変え、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えてPTA活動の活性化を進めています。

また、毎年PTA活動におけるPTAスローガンを掲げており、令和5年度のスローガンは『未来へ紡ぐ今を生きる～我ら西湘応援団～』とし、未来のある子どもたちが素敵な笑顔で学校生活を送れるために、一本一本細い繊維を紡ぎ、丈夫な糸を作るように、先生方・保護者等が一人一人協力し、新たな未来へ向けて頑張っていこうという思いがあります。

(2) 広報委員会

広報委員会では、広報紙『西湘』を年3回発行しています。令和4年度の実績では、6月にPT

A役員・教職員紹介号、10月に体育祭・文化祭特集号、2月に卒業特集号を発行しました。発行作業は、取材撮影を行い、取材に行けない場合は原稿依頼を行い、写真選定、編集作業を経て印刷業者に入稿し、何度も校正作業を繰り返して広報紙を発行します。

またその他の活動として、今年度は文化祭で体育祭で撮影した写真のスライドショー上映やフォトスポットの設営等を行いました。

(3) ふれあい委員会

主な活動は、文化祭での『ふれあいバザー』『制服リサイクル』『物販』と10月に実施している『ふれあい美化活動』です。

文化祭では、『西湘高校ロゴ入りタオル』『復活！西湘ロゴ入りクッキー』の販売も行い、あっという間に完売し、たくさんの方とふれあう事ができました。

また、ふれあい美化活動は、保護者・生徒・教職員の約140名が西湘高校周囲の除草作業を一緒に行う一大イベントとなっています。

(4) 厚生委員会

主な活動は、『自転車点検』と『花壇整備』で、地域ボランティアと学校をつなぐ大切な役割を担っています。

花壇整備は、定期的に除草作業と花の植え替えを行い、四季折々の花を楽しめるように、花壇ボランティアと協力して活動し、文化祭では、花壇から摘み取ったハーブでハーブティー、ハーブブーケを提供しました。

また、自転車点検では、自転車組合に協力していただき、生徒が通学に使用する自転車を一台一台丁寧に点検し、生徒の安心安全に関わっています。

(5) 成人教育委員会

保護者同士の親睦と教養を深めることを目的として、年2回『芸術鑑賞会』と『社会見学』のバスツアー研修を企画しています。今年の7月には、劇団四季ミュージカル『アナと雪の女王』の

鑑賞、10月には社会見学として埼玉県の醤油工場の見学を行う予定です。

コロナやインフルエンザの感染が心配される昨今ですが、安心・安全なバスツアー研修を目指して企画しています。

(6) 学年委員会

保護者が最も関心がある子どもの進路について、外部講師をお呼びして、保護者対象進路講演会を開催しています。コロナ感染拡大に伴い、WEB配信に変更し、毎年変わる大学入試制度や受験勉強への対応方法、保護者としてのサポート方法などを講演していただいています。

また、文化祭では、お菓子のブーケの販売や上映会を広報委員会と共同開催するなど、保護者と学校のパイプ役として活動しています。

4 PTA意識調査

(1) PTAとは

PTAとは、保護者、教職員、組織の略で、子どもたちの健やかな成長のために、保護者と教職員がお互いに協力し合って様々な活動を行い、育成する集まりのことで、今から78年前の1945年から歴史が始っています。アメリカから派遣された教育の専門家により、戦後の日本の教育に関する基本的な方向性を示し、PTAの設立と普及を推奨する方針が掲げられ、文部省を通じて、全国的にPTAの指導、支援を行ったことから広まりました。当時の文部省が作成したPTA結成手引書の中には、PTAの趣旨として、『子どもたちが正しく健やかに育っていくには、家庭と学校と社会とが、その教育の責任を分けあい、力を合わせて子供たちの幸せのために努力していくことが大切である。』と謳われている。

(2) PTA問題

子どもや学校のために活動をするPTAですが、毎年、年末から4月頃までPTAのさまざまな問題が各メディアにクローズアップされることが多くなります。特に4月は入学・進級の季節で、PTAの役員・委員選出が行われるため、憂

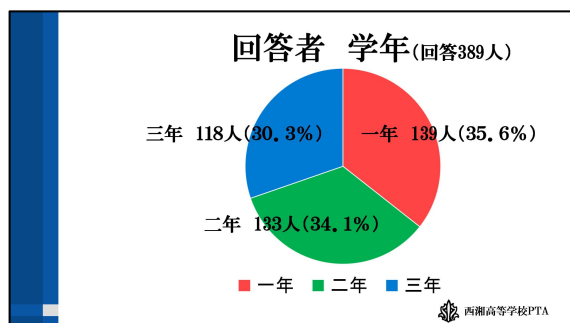
鬱だという人もいるのではないのでしょうか？

また、コロナ過頃からPTAを退会する人、集会やイベントの実施が難しく実質的にPTA活動を停止した学校も多く、PTA廃止を訴える声が相次いでいるニュースも聞きます。

そんなPTAは、実際、どう思われているのか？

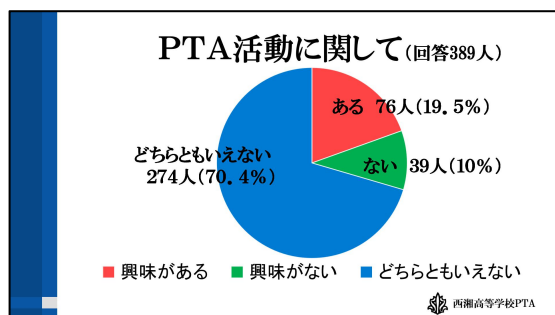
西湘高校の保護者等を対象にPTA意識調査として、アンケートを実施し、その結果をもとに、PTAの課題と今後のPTA活動について考えてみたいと思います。

(3) 学年別の回答者数



アンケートは、集計作業の都合上、グーグルフォームを利用したWEB調査とし、1年139人、2年133人、3年118人の389人が回答に協力してくださいました。

(4) PTA活動に対する意識調査



このPTA活動の意識調査についての設問では、『興味がある』が19.5%、『興味がない』が10%、『どちらともいえない』が70.4%と『興味がある』という人が『興味がない』という人を大きく上回りました。PTAには、ネガティブなイメージが多いものの、回答の『どちらともいえない』を含めると約9割の保護者等が

なんとなくPTAについて興味を持っていてくれるようです。

では、PTAってどんなイメージを持っているか、記述式で回答していただきました。

(5) PTAのイメージについて

- ・大変そう
- ・面倒くさい
- ・忙しい
- ・負担が大きい

西湘高等学校PTA

- ・熱心な保護者と興味のない保護者の差が激しい
- ・何をしているのかわからない
- ・時間的拘束がある
- ・参加しにくい

西湘高等学校PTA

PTAのイメージは、ネガティブなイメージばかりでしたが、ポジティブな回答もありました。

- ・子どもと学校の架け橋
- ・学校と家庭を繋ぐ、重要な役割
- ・縁の下の力持ち
- ・保護者の代表

西湘高等学校PTA

- ・子どもの学校での様子がわかる
- ・保護者、先生と交流が持てる
- ・教育に貢献できた
- ・自分の学びの場

西湘高等学校PTA

さらに、過去（保育園や幼稚園、小・中学校）に、PTA役員を経験したことのある人に、実際PTAをやってみてどうでしたか？という設問では、メリットを感じる声が多く聞かれました。

- 大変だったけど楽しかった
- やってみると仲間たちと楽しく活動ができた
- やりがいがあった



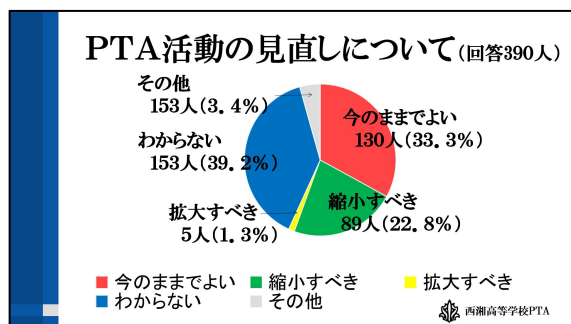
- 子どもの学校での様子がわかる
- 保護者、先生と交流が持てる
- 教育に貢献できた
- 自分の学びの場



ネガティブなイメージが多いPTAですが、実際にPTAを経験してみると、やってよかったという意見のほうが多い結果でした。

しかし、まだまだPTAの存在意義を含め、ネガティブなイメージのPTAですが、これからのPTAはどうしたらいいのか？無くてもいい活動もあるのか？はたして、見直しは必要でしょうか？

(6) PTA活動の見直しについて



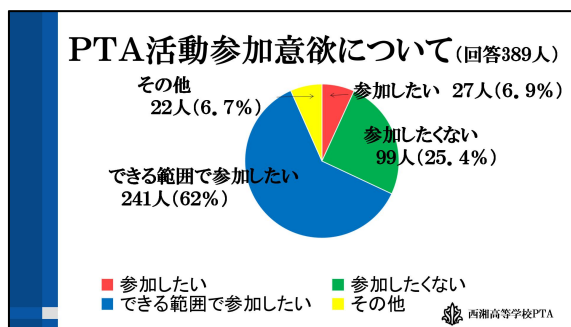
一見このアンケート結果だけを見ると、約3割の人が『今のままでよい』と回答しており、大きな改革や根本的な見直しは、必要なさそうな感じがします。

しかし、コロナ禍を経て、PTA活動ができない、活動が縮小されたにも関わらず、PTAを見直す必要がある、PTAを変えるべきだという声が意外と少ないことに注目していただきたい。

先に、誤解のないように言っておきますが、PTAの趣旨が間違っているとは思っていないし、PTAが不要だとも思っていない。今まで長いPTA活動を行ってきた、歴代PTA会長をはじめ、PTA役員の方の考え方が悪いとか、間違っているとりたいのではありません。むしろ、膨大な時間と労力を費やして、活動されてきたことについては、感謝しかありません。

だからこそ、約2割の人が『縮小すべき』と回答していることから、このような声が出てくるタイミングが、改革・見直しのチャンスだと思います。

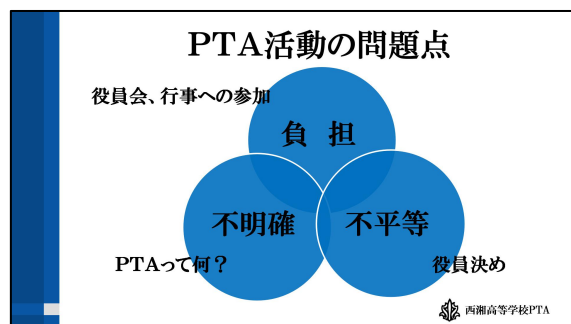
(7) PTA活動参加意欲について



なんと『参加したい』がわずか6.9%、『参加したくない』25.4%、『できる範囲で参加したい』が最も多く62%、『その他』が6.7%という結果になりました。

PTAはネガティブなイメージ、PTA活動の担い手である役員が居ない・・・、PTA活動ができない・・・いや、PTA自体の存続も、難しくなる日がくるのではないかという危機感さえあります。

(8) PTAの問題点について



今までのアンケート結果をもとに、PTAの問題点について、大きく分けて3つにまとめてみました。

1つ目の問題点は、『負担』。アンケート結果にもあったとおり、仕事を休んでまで役員会、行事への参加などで『大変』、『面倒くさい』、『忙しい』など大きな負担が考えられる。

2つ目の問題点は、『不明確』。PTAって何やってんの？、そのPTA活動は必要？いや、そもそもPTAって何なの？など、経験したことのある人は理解されていますが、PTA未経験、興味がない人には閉鎖的PTAのイメージであり、開放的なPTAや見える化PTAの推進が必要である。

最後の3つ目の問題点は、『不平等』。恐怖の役員決め、じゃんけん、くじ、PTA役員決めアンケートによる電話・・・なんで私だけ・・・役員だけが忙しいなど・・・不平等問題。

これらの問題点から見てきたのは、今の世の中に即したPTAの活動が行われていない点ではないでしょうか？



近年、働き方改革とともに耳にするようになった『ワーク・ライフ・バランス』。

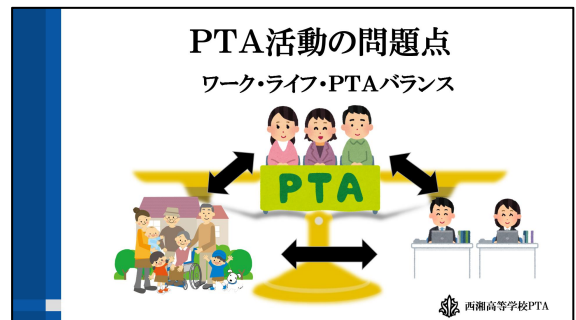
ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活のバランスが取れた状態ことで、仕事はやりがいや充実感を感じながら行い、生活は家族や趣味などプライベートの時間を充実させることにより、仕事と生活をお互いに良い影響を与えながら、仕事の生産性・効率性や生活の健康・豊かさを高めさせるということです。

PTA活動により平日昼間に開かれる会議や行事などに参加するのは、負担が大きく、『できればやりたくない』、または、仕事や介護など家庭

の事情などで『できない』という保護者が増加しています。

女性の社会進出や男性の子育て参加、仕事と家庭のバランスを崩してまで、PTA活動は行うべきではありません。

核家族、共働き家庭の増加やライフスタイルの多様化などにより、今までと同じの方法で活動を続けるには限界ではないでしょうか。



『ワーク・ライフ・PTAバランス』

今こそ、仕事・生活・PTAがよいバランスが取れるような制度や仕組みに改革・見直しし、保護者の負担を軽減する必要があると思います。

(9) ボランティア制の試行について

西湘高校では今年度、ボランティア制を試行してみました。

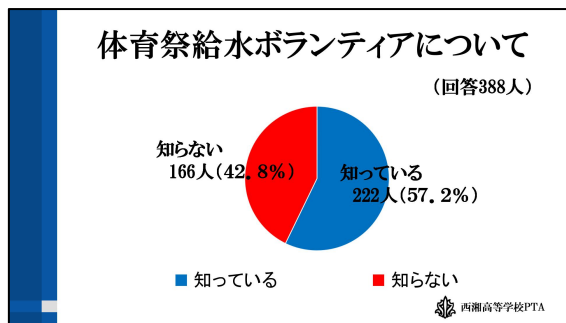
申込方法は、申込票を提出してもらうために今年度は紙媒体のみとし、募集案内については、マチコミで配信している『PTAだより』にて行いました。

昨年から西湘高校では、熱中症事故防止対策として、体育祭時に給水所をPTAが設営し、スポーツドリンクやお茶などを感染予防対策しながら提供しており、今年は、昨年に多くの生徒たちが利用していたことや3年ぶりの家族の観戦を可能とする一般開放を踏まえて、生徒、先生、保護者など、多くの人が利用できるように給水所をグラウンド内2か所に増設しました。

この給水所は、本部役員が中心となり、各委員会からのお手伝い、ボランティア参加に手を挙げてくれた10数名で運営しました。

試行的に行ったボランティア制ですが、多くの改善点もありましたが、その一つとして、募集方

法です。

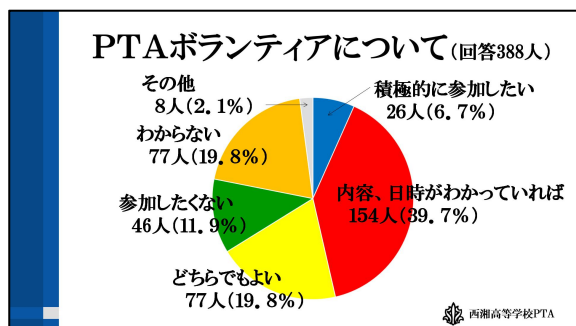


体育祭では、生徒を通じて紙媒体での配布と併用して、マチコミの『PTAだより』での案内としましたが、ボランティア募集案内は約6割程度の保護者にしか周知が出来ていませんでした。

PTA活動の『見える化』の観点、そしてボランティア制の導入を考えると、まだまだ改善が必要という結果でしょうか。

この結果から、今後、インターネットによる回答システムの導入やボランティア募集案内を検討し、『やってみたら楽しかった』と思ってもらえるような組織運営と、『やってみよう』『やってみてもいいかも』と思ってもらえるようなPTA活動の『見える化』メッセージを保護者に向けて発信していきたいと考えます。

(10) ボランティアの意識調査について



先程のPTA活動参加意欲調査の『参加したくない』25.4%と比較すると、ボランティア意識調査結果の『参加したくない』11.9%と約半数の人が、ボランティアなら参加してもいいかなと思ってきていることとなります。

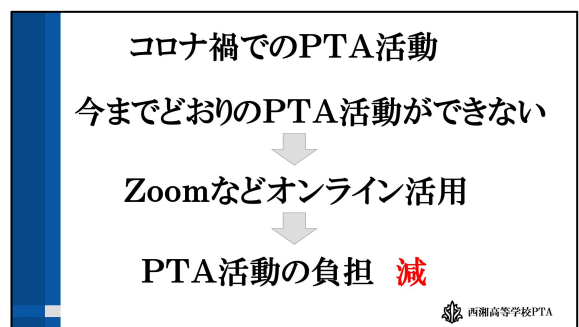
PTA活動は、本来ボランティアです。ボランティア制の導入で、PTA活動に参加しやすい環境の構築が可能です。

試行的に行ったボランティア制ですが、もし募集しても集まらなかったらどうしよう等の不安要素はありますが、全く集まらなければ、やらない、少人数しか集まらなかったら、集まった人でできる活動をするという選択肢も考慮しなくてはなりません。

また、どうしても実施しなければならないことがあれば、学校側とも相談しながら再度募集をかけるなど柔軟な活動が必要かもしれません。

しかし、集まらなかったから、役員で穴埋めをしましたでは、役員の負担を増やすだけの逆効果となります。

(11) コロナ禍でのPTA活動について



今、PTAは、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、変わろうとしています。

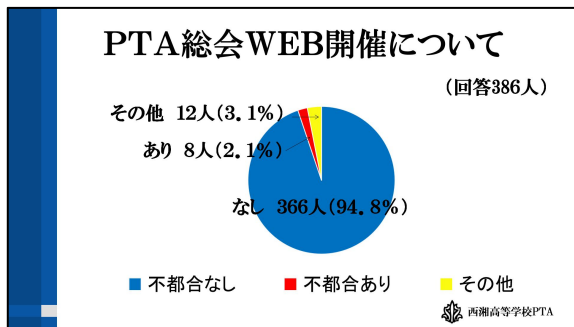
いえ、変わらなければなりません。

新型コロナウイルス流行時は、今までどおりのPTA活動ができず、役員会議さえ中止となり、ただ新型コロナウイルス流行が収束するのを待つのみでした。

しかし、社会も新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が増加し、Zoomなどのオンライン化が普及し、今では、いつでもどこでもつながれるようなオンライン化で交流することが可能な世の中となり、多くのPTAがオンライン化を利用し、オンラインミーティングなど取り入れ、PTA活動を効率化し、負担の軽減や無駄を省いたり、仕事を分担して一人に負担がかからないよう配慮されるようになりました。

我が西湘高校もPTA総会をWEB開催とし、時代に即した対応をし、PTA活動をオンライン化

することで、保護者、役員の負担を軽減し、より多くの保護者・役員が気軽に参加できるようになりました。『コロナが収束したから対面開催に戻す』といった前例踏襲の発想から脱却し、これを機に、アフターコロナ、ウィズコロナでもWEB開催としていきたいと考えています。



5 まとめ

まとめ

- 保護者の負担軽減
- 参加しやすいPTA活動環境の構築
- PTA活動運営の効率化向上

西湘高等学校PTA

『PTAは大変』『PTAって必要なの?』『PTAなんて無くてもいいのでは?』というネガティブなイメージばかり聞こえますが、子どもたちのすこやかな成長のためには、学校と保護者の協力は欠かせません。

このコロナ禍を経て、PTAは、廃止、退会というよりも、改革・見直しをするチャンスの時期です。

PTA活動をボランティア制とし、保護者・役員の負担をなくし、楽しく・参加しやすいPTA活動環境を構築することが必要です。

また、PTA活動を『見える化』することにより、活動の目的や全容が見えれば、気持ち良く参加できる人も増えるはずです。

さらに、PTA活動をオンライン化することにより、時間、交通費などコストが削減できるという利点があるほか、保護者・役員の負担軽減、P

TA活動の運営効率化を向上することが可能となります。

まとめ

**できる人が、
できる時に、
できることを!**

西湘高等学校PTA

PTA活動の基本は、『できる人が、できるときに、できることを』です。

家庭や仕事を犠牲にしてまで頑張ってしまうと、長く活動が続けることが困難となります。

大切なのは、互いに支え合う『助け合い』の気持ちで取り組んでいくことです。『ありがとう』という何気ない一言が、気持ちよいPTA活動につながって行きます。

これからも県西地区の各高校と様々な情報を交換し、西湘高校のPTA活動の活性化を進めたいと思います。

